長崎高教組新聞

発行
〒850-0013 長崎市中川2丁目2番5号
長崎高教組会館
長崎県高等学校教職員組合
☎ (095)-827-5882
FAX (095)-826-2976
編集責任者 小田 誠
購読料一部10円
組合員は組合費に含む
メールアドレス
naga-kks@fsinet.or.jp

安倍内閣　森友・加計疑惑隠し 党利党略で 衆院を解散
国政の私物化を糾弾し 総選挙で 立憲主義を取り戻そう！

9月28日鉄橋での抗議行動

安倍内閣は9月28日に招集した臨時国会の冒頭で、施政方針演説も行わないまま、衆議院を解散しました。6月22日に野党4党が、憲法53条の規定に従って、森友・加計問題での国政私物化疑惑を究明するための臨時国会の召集を要求したにもかかわらず、3カ月以上ほったらかしにしたあげく、代表質問や予算委員会実施等の実質的な審議を何もしないままの解散は、疑惑隠しの解散であり、民進党の新体制のゴタゴタ等に乗じて選挙を有利に戦うことができるという思惑が明らかな党利党略の解散です。

マスコミも「後付『大義』矛盾」（毎日新聞）、「安倍首相の『個利個略』とも言うべき様相」（長崎新聞）などと論じています。また、毎日新聞が9月26・27日に実施した世論調査でも、解散を「評価しない」との回答が64％で、「評価する」の26％を大きく上回っています。

冒頭解散の憲法上の問題についても、憲法学者の石川健治東大教授は「野党が6月に臨時国会の召集を求めたにもかかわらず、安倍晋三首相がなかなか応じず、ようやく招集される臨時国会で一切の審議もせずに解散というのでは53条違反だ。首相による今回の解散権の行使は『非立憲』であるのみならず、『違憲』だと言ってよい」と断じています（9月26日・毎日新聞）。

27日には、稲正樹国際基督教大元教授などの憲法研究者有志が、89人の賛同を得て、安倍首相が表明した臨時国会での冒頭解散は憲法の趣旨に反すると批判する声明を発表しています。

長崎では、28日夕方、憲法改悪阻止長崎県共同センターや言論の自由と知る権利を守る長崎市民の会など7つの市民団体と被爆者5団体が主催して、疑惑隠しの冒頭解散に抗議する街頭行動が、浜の町アーケード入り口の鉄橋で行われ、高教組からも2人が参加しました。

衆院解散によって、10月10日告示・22日投開票で総選挙が実施されます。今回の選挙は、秘密保護法や安保法制、「共謀罪」法の強行等で憲法を破壊し、森友・加計疑惑に代表される国政の私物化をすすめてきた安倍政権に対して審判を下す選挙であり、立憲主義を取り戻すための選挙になります。長崎高教組も「平和憲法を守ろう」「政治を変えて、子どもと教育を守ろう」の立場で、全ての教職員に、政治の現状を語り合い「選挙に行って政治を変えよう」とよびかけるとりくみをすすめます。

ボードを掲げる馬場書記長

「核兵器禁止条約にすべての国の参加を！」
世界各地・全国各地で「平和の波」ひろがる

7月7日に122カ国の賛成で採択された核兵器禁止条約の調印が始まった9月20日から、国連核兵器廃絶デーの9月26日まで、世界の全ての国の政府に条約参加を求める世界同時行動「平和の波」のとりくみが、世界各国・全国各地でとりくまれました。その数は、集約されているだけでも、国外で14カ国（アメリカ、フランス、イギリス、ドイツ、イタリア、デンマーク、カナダ、韓国、フィリピン、インド、ニュージーランド、オーストラリア、フィジー、マーシャル諸島）、国内では、207都市で517回の行動がとりくまれています。

長崎では平和祈念像前で起点集会

被爆地長崎では、20日の午前11時から平和祈念像前で、被爆者5団体の主催で起点集会が開催されました。集会の冒頭、長崎に原爆が投下された11時2分に黙祷が行われた後、被爆者5団体の各代表からあいさつがありました。5人のあいさつでは、異口同音に核兵器禁止条約が採択されたことへの喜びとともに、唯一の戦争被爆国である日本の政府が条約に反対していることへの憤りが表明されました。

あいさつを行う被爆者団体代表

その後のリレートークでは、10万筆の目標でヒバクシャ国際署名にとりくんでいるララコープから、署名数が8万6千筆を超えたことが報告され、参加者から大きな歓声が上がりました。また、民医連からの参加者は、10月に予想される総選挙で、核兵器禁止条約に賛成する政府を実現しようとよびかけました。

世界に広がれと空に飛び立つヒバクシャ国際署名

集会は最後に、ヒバクシャ国際署名のハガキをつけた風船を一斉に空に放ち、署名のとりくみをいっそう広げることを確認しました。集会には約120人が参加し、高教組からも3人が参加しました。

会場では中国人観光客にも署名してもらいました

高教組でも3カ所で街頭署名活動

23日新大工商店街での署名活動

長崎高教組でも、「平和の波」のとりくみとして、23日と26日に合計3カ所でヒバクシャ国際署名の街頭署名活動がとりくまれました。23日には、民主教育推進委員会終了後に、本部執行部と参加者有志で、高教組会館近くの新大工商店街で1時間弱の署名活動にとりくみ、61筆を集約しました。「がんばってください」と声をかけてくれる人も数人あり、ある年配の男性からは「あなたたちは頑張っているが、首相がね…」と、核兵器禁止条約に反対する安倍政権への不信の声が出されました。

快く署名に応じる買い物客

26日には、佐世保支部が市内の島瀬公園前で署名活動を約1時間行い、6人の参加で70筆の署名を集約しました。また、鳴滝高校定時制の2分会（昼間部と夜間部）は、生徒の登下校の時間帯に合わせて、高教組会館前で署名活動を行いました。両分会からの参加者は4人でしたが、多くの高校生がよびかけに応えてくれて、約1時間で56筆が集約されました。

26日高教組会館前での署名活動

核兵器禁止条約に賛成する政府を

核兵器禁止条約は50カ国以上が署名・批准した日から90日後に発効します。9月22日までに53カ国が署名し、そのうち3カ国が批准しています。唯一の戦争被爆国である日本が、一日も早くこの条約に参加するよう、ヒバクシャ国際署名のとりくみをいっそうすすめるとともに、核兵器禁止条約に賛成する政府を実現するための政治革新が必要になっています。

学びあう秋

若い先生を誘って、唐津と諫早での教育研究集会に集まりましょう

☆全国学習交流集会in唐津（11／18・19）

☆秋の教科別教研（11／25：諫早）

学習の秋です。全国の教職員、長崎の教職員と教育実践を交流し、意見を交換しましょう。11月後半の土曜日、日曜日は学びの日に決定です。

唐津城

「秋の陣（秋の拡大強化月間）」に工夫をこらし積極的にとりくみ、「3か年計画」の完成年度の目標達成に邁進しましょう

9月23～24日、東京・全教会館で「職場活動の活性化、組織の拡大・強化交流集会」が開催され、全国から二日間でのべ200人が参加して、基調報告（別掲しています）、4本の特別報告、7つの分散会に分かれての活発な討論がくり広げられました。長崎高教組からは、支部役員、青年部、実教部、本部の4人が二日間参加しました。

特別報告では、青年の報告が多く、元気をもらうと同時に、明るい未来を感じました。ゆいま～るで元気づいている青年教職員のつながりを核にして、SNSを活用してポなし、ノルマなしの職場訪問」を報告した群馬高教組の明るさ、フットワークの良さはすぐにでも取り入れたいものです。

1日目の午後と2日目の午前中は、7つの分散会に分かれて、各分散会3単組からのリード発言をもとに、組織の状況や職場の状況等を交流しました。長崎高教組の現状ととりくみ、支部や青年部、実習教員部のとりくみなど参加した分散会で発言しました。教員採用試験学習会のとりくみでは、学習会参加は組合加入を条件とすべしという意見が圧倒的でした。

青年をターゲットにとりくみを行っている北海道高教組の青年の「時代は繰り返す。厳しい情勢の時こそ、組織拡大のチャンス」という言葉が印象に残りました。また、「ア

高教組の「秋の陣（秋の強化月間）」のとりくみとして、

○10～11月の声かけ対話目標を200人とする

○特に新採者への総当たり声かけ・対話運動を完遂する

○分会キャラバン

○確定交渉の情宣

○全国教職員学習交流集会in佐賀唐津（11／18・19）および秋の教研（11／25）への青年教職員の参加

○青年部企画の実現

○全教共済加入促進

などを提起します。子どもたちの笑顔、学ぶ喜びを大きくし、教職員が健康で朗らかに教育に邁進する姿を実現するために、できる限りのことをやっていきましょう。

＜基調報告＞

学校は学ぶ喜びにあふれる空間になっているでしょうか。

2015年、「子どもと教育に夢と希望を」「仲間を増やして未来を拓こう」とすべての組合員に呼びかけて全教の「組織建設3か年計画」がスタートしました。これまでの２年半のとりくみを通じて、次のような教訓と課題が明らかになっています。

第一に、風通しがよくあたたかな職場をつくりだすこと。長く働き続けられる職場の条件「ゆとり」「なかま」「自己決定権」の３つが学校現場から急速に失われつつある。私たちが笑顔で子どもたちの前に立てる職場づくりは、よりよい教育に直結する課題です。

第二に、対話が広げる可能性を信じて一歩踏み出すための工夫を。組合加入を働きかけるのは大きなエネルギーを必要とします。すぐに加入が実現しなくても、声をかけ折にふれてつながりを絶やさないようにすることがその後の加入に結びついています。

第三に、「一緒に要求を実現しよう」という率直な声かけ。長時間過密労働、賃金や労働条件はすべての教職員にかかわる問題です。「あなたの加入がみんなの力になる。一緒に要求を実現しよう」という訴えが、相手の心に響きます。

第四に、青年の創造性とそれを支えるとりくみ。青年部定期総会で「組合は自分の思いをかたちにできるところ、それが幸せだと思う。新しい人も誘いたい」という印象的な発言がありました。労働組合が身近な存在ではない多くの青年教職員に、まずは来てもらう、そして組合のことを知ってもらう場が大切です。

第五に、減らさず増やすとりくみ。新たな加入者とのつながりを大切にして、組合員としての経験を重ねてもらい「組合の存在意義を確信する」、「増やす人になる」ことこそ組織の強化につながります。

第六に、全教共済の加入促進運動とむすんで。「集まることもできない」「集まることそのものがたたかい」という学校現場で、全教共済の声かけ対話はあたたかでほっとできる場所と時間をつくりだしています。

以上のような教訓と課題を踏まえて、憲法をまもりいかすとりくみと結び、職場で集まる機会をつくりだし、職場・分会訪問にとりくみ、共済加入促進運動と一体的に、青年部の創造的なとりくみを支えて、秋の拡大強化月間に１万人対話をやり遂げましょう。

憲法改悪阻止シンポジウム

憲法改悪阻止シンポジウム「9条に自衛隊明記でどう変わる?!」が、10月1日に長崎市立図書館・新興善メモリアルホールでおこなわれ、高教組から10人が参加しました。

まず憲法改悪阻止長崎県共同センターから主催者挨拶があり、続いて3人のパネリストから発言がありました。

井田洋子長崎大学教授は「9条に『自衛隊』を明記すること＝明文改憲の意義」という題で、主に法解釈を中心として発言しました。これまでの憲法解釈についての歴史を振り返った上で、「現時点では、条文の意味に忠実に解釈すれば自衛隊は憲法違反。自衛隊はあくまでも政府解釈によって合憲とされている。従って、自衛隊を明記することは、まさしく現憲法9条の価値観の放棄を意味することになる。さらに、現9条の1・2項を維持したままで3項に自衛隊を明記する行為は、9条解釈における論理的破綻をさらに拡大させる行為に他ならない」と結論づけましたが、自衛隊が国民の承認を得ている現状を考えるとき、「9条の精神を守るには覚悟が必要」としました。

冨塚明長崎大学准教授は「米軍と自衛隊」という題で、現在の自衛隊の装備や役割、米軍との関係について詳しく説明した上で、「新自衛隊法」によって専守防衛の枠が撤廃され、特に陸上自衛隊は「新に戦える組織」へと改革されており、政府による集団的自衛権の容認、安保法制によって「海外で戦争できる国へ」と大変貌を遂げている点を指摘し、「9条に自衛隊を書き込めば、こうした自衛隊の現状を全て追認することになる」と結論づけました。

西川末則元自衛官は、自らの経歴について述べた後、「自分が勤務していた時代は『専守防衛』であったが、集団的自衛権の容認で自衛隊の性格が大きく変わっている」とし、後輩の気持ちを代弁する気持ちからマスコミに対して積極的に発言していること、現職・OBの自衛官たちは声をあげることが難しいが、自分に対しては「よく言ってくれた」とお礼の言葉がかけられることなどを披露しました。

この後、参加者からの質疑応答、意見発表が行われました。安倍政権の憲法改正への積極的な姿勢や、北朝鮮のミサイル発射問題などが中心となりましたが、こうした発言を踏まえた上で、3人のパネリストは以下のようにまとめました。

①太平洋戦争、広島・長崎の悲劇と引き替えに平和憲法を手にした日本の首相は、アメリカと北朝鮮の対立の仲裁をすべきである。

②憲法を変える口実が、マスコミ等を通じて、しかも一方的な情報の元で作られている。北朝鮮の行為が正しいとはいわないが、北を対話に引き込むことで状況を変えていく必要がある。

③自衛隊の任務を非軍事化するなどして、憲法とのズレを修正しなければならない。安倍首相は憲法9条を蹂躙する発言をしているが、今変える必要性は感じず、世界との関係で9条は必要である。

こうした姿勢を、私たちは今後の指針とすべきだと思います。

（鍛治副委員長）

「42・195km 嬉野SPAリレーマラソン2017」に参加して

4年連続で「全教共済長崎」チームで、42・195km嬉野SPAリレーマラソンに参加しました。このイベントは、全教共済の集いあい促進費から予算をいただいて毎年参加しています。最初に全教共済、特に生命、医療、自動車への加入を呼びかけ、未組合員には組合の勧誘をしました。

今年は、40代1人、50代4人、60代3人の8人で走りました。けが人が多く、時間内完走は厳しいのではないかと予想していたのですが、予想以上に一人一人が頑張り、なんと昨年の記録を5分以上縮める3時間25分37秒でゴールしました。

終了後はみんなでお弁当を食べ、それぞれ嬉野の温泉に入って解散となりました。

今回は川棚高校の女性分会長がタイムを計るなど女子マネジャー役をしていただき、大変助かりました。参加された皆様大変お疲れさまでした。

この大会は気候もよく、自然の中でとても気持ちの良い大会です。まだ参加したことがない方も参加してみませんか。

（今泉執行委員）